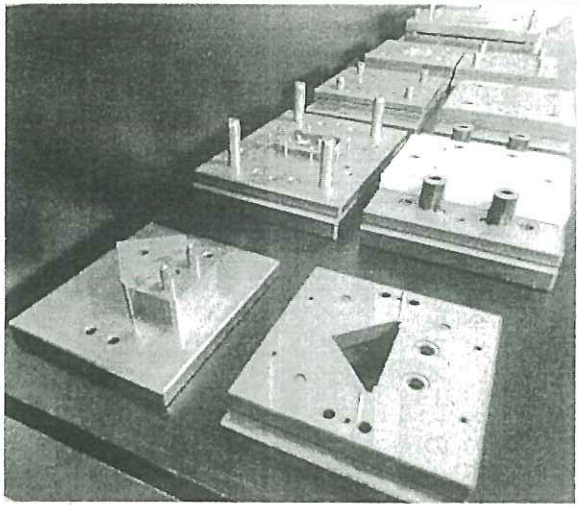
日刊工業新聞　第3種郵便物認可

フィリピンに熱視線

東京・多摩の中小

競合少ない産業構造 魅力に

潤沢な労働力狙い進出加速



協栄プリント技研がフィリピン工場で生産する電子部品用金型

東京・多摩地域の中小企業がフィリピンに熱視線を送っている。背景には、大手企業を頂点とする「産業ピラミッド」がタイやインドネシアなど他の東南アジア諸国連合（ASEAN）各国に比べ固まっておらず、各業界で食い込む余地が大きいとの判断がある。12日には安倍晋三首相がフィリピンのドゥテルテ大統領と首脳会談し、今後5年間で1兆円規模の支援を表明した。各社は関係強化が進む同国を海外進出のフロンティアと捉えている。（西東京・尾内淳憲）

「日本は技術力が、フィリピンは潤沢な労働力がある。両国は相互補完の関係にある」。フィリピン国内に953支店を持ち、大手銀行の一角を占めるメトロポリタン銀行（マカティ市）の片倉憲一東京支店長は、日本企業の進出は相互利益になると強調する。

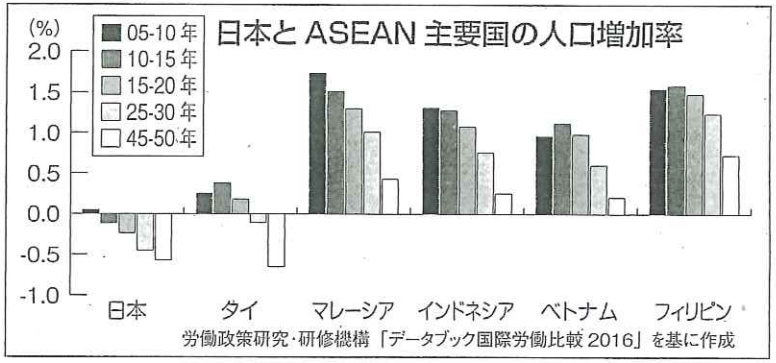
フィリピンの平均年齢は23歳（日本は46歳）と若く、人口はASEANで2位の約1億人。労働人口は約4800万人との推計もある。賃金上昇率は5%程度で安定しており、メトロポリタン銀の予想によると、2017年も約5・5%で推移するとみている。

ポイント管理システム開発などを手がけるクレアンスメアード（東京都青梅市）は、単独か合弁でのフィリピン進出を検討。菊池一夫社長は「システムの英語対応ニーズが増えている。公用語が英語であることや人口ボーナスは魅力だ」と話す。

進出各社がフィリピンに引きつけられる理由は労働力だけではない。16年12月に現地法人を設立し、日系メーカー向けに電子部品用金型などを製造する協栄プリント技研（同調布市）の小林明宏社長は「競合他社がほぼいない。受注を見込む企業以外も取引先を拡大できる可能性が高い」と明かす。

同じく12月に進出し、日系自動車部品メーカー向けに再生プラスチック製トレーなどの輸送用資材を製造する未来樹脂（同小平市）の境野智久副社長は「フィリピン工場は3年後をめどに100%現地受注できるようにする」と意気込む。17年中にも電子部品などの製造工程で使われる機能性フィルムの輸出を目指すコスモテック（同立川市）の高見沢友伸社長は「マレーシアは産業ピラミッドがすでにある。ピラミッドが完成されていないフィリピンにはチャンスがある」と期待する。

フィリピンは日系大手企業の進出に続き、10年頃から中小企業の進出が始まっている。メトロポリタン銀の小高岳法人営業部長は「産業構造が固定化されていない現段階では製造業、非製造業ともに進出メリットがある」と話す。多摩地域の各社はフィリピンを事業拡大が見込める市場とみて、果敢に経営資源を投入する。



労働政策研究・研修機構「データブック国際労働比較2016」を基に作成